

第3回 佐倉市におけるこれからの学校のあり方懇話会

日時	令和7年1月14日（火）午後3時00分から午後5時00分まで
場所	1号館 6階 第1会議室
出席者	○出席委員 古賀 毅委員、定野 司委員、辻 太久郎委員、宮本 正教委員、石田 加奈子委員、岡島 由夏委員 以上 6名 ○事務局 緑川教育部長、宮崎教育総務課長、村上学務課長、榎本指導課長、神成教育センター所長、新川副主幹、伊藤主査、榊田主査補、大野主査補 ○傍聴人 2人
配付資料	・ 次第 ・ 資料1 アンケート調査結果の概要について（報告） ・ 資料2 多様な教育ニーズへの対応に関すること ・ 資料3 将来を見据えた学校施設の整備に関すること ・ 参考資料1 アンケート調査 調査結果報告書（速報）
議事	① アンケート結果の概要について ② 多様な教育ニーズへの対応に関すること ③ 将来を見据えた学校施設の整備に関すること
以下、議事内容	
1 開会 2 議事 ～議事① アンケート結果の概要について～ 【会長】 それでは次第に沿って進行してまいります。 議事の①「アンケート結果の概要について」について、事務局からご説明をいただきます。よろしくお願いします。 【事務局】 （資料1に基づいて説明） 【会長】 はい、どうもありがとうございました。大変な調査をしていただきましてありがとうございました。 今ご説明いただいた内容、速報について、それぞれのお立場からお考えになったことや、この辺をもう少し深めたいというようなこともご指摘いただけたらと思いますが、どなたでも自由にご発言ください。	

【委員】

一番最後の方からで申し訳ありません。望ましいクラスの人数についてなのですが、いわゆるその35人学級というと35人いつもフルにいるような感じですけど実はそうじゃなくて、35人学級だったら、36人になると二つに分けなきゃならないので、18人になるというクラスがたくさんあるわけです。

なので、実際35人学級というと35人みんなフルにいるかと、そうではない、というところは整理しておかないと、イメージが違うかもしれないなと思うのです。だから、十数人の学校もあれば、もう35人ぐらいのところもあるので、それで分布がわかれば、データとしては面白いなと思います。

もうひとつは、その前のページの働き方改革のところで、これ入れていただいて、プライベートな時間にも使いたいというところなのですが、これ見てみてそうだよなというのは実感として、授業準備と子どもに向き合う時間が欲しい、これ話聞くとだいたいそう言うのですね。プライベートな時間欲しいんだけどそっち行っちゃって、実は取れないという話が、個別に聞いてみるとそういうことおっしゃる先生が多いですね。だから順番としては、確かに1、2、3番でいいように見えるんだけど、実際には1と2で手いっぱい、もしかすると3番のプライベートの時間は取れてないのかな。だとすると、プライベートな時間を取れてるよと聞けばよかったかなと思ったのです。なので、もし機会があればそんなこともヒアリングなどを通じて聞いていただけると、フォローできるかなと思いました。

【会長】

ありがとうございました。

今読み取り方のご指摘もありましたように、ランクと数字だけでは読み取れないところがあるので、そこを注意していきたいのと、あと、数が多いのは優先度が高いかということ、必ずしもそういうことでもなくて、市民は、特に保護者さんもそうですけど、アンケートを見せられて、この中だったらこれかなぐらいの選択で、感覚でなさってる方が多分多いのではないかと思います。けれども、切実な人というのは多数派ではなくて、少数派の方がぜひやって欲しいという人が出てくると思うので、今委員がおっしゃったように、質的なところも、インタビューなどいろんな形で拾っていかないといけないなと思ったところです。いかがでしょうか。

【委員】

地域連携について、この設問にはちゃんとボランティアとは書かれていないのですが、ボランティアという認識で多分、アンケートするときも皆さん書いたと思います。もし、これにお金が発生する場合はやれますかという質問があったら、ちょっと違っていたのかなと思ったりして、人が足りないと言っていて、お金を払わないけど人が足りないというこの状況と、でも、みんな何かしら仕事をして、自分の時間をどこに使うかというのを考える時に、子どもたちのために使いたいけど、100%ボランティアだとなかなか厳しい、という人もいるのかなと思います。「特に参加したい取り組みはない」はやりわりとボランティアだけど、というところがちゃんと書いてもないし、何かそこがちょっと、私も自分でアンケートを考えている

ときに、なかなかこれに積極的に参加したいと思う方は、やはりある程度子育ても落ち着いたたり、今ちょっと手が空いているという人しかなかなか書けないなど、正直思いました。

もう一点、私が気になったことは、子どもたちの望ましい将来像についてですが、「他人に対する思いやりのある人」が1位になることは、日本人だからもうこれがこうなるに違いないと思っていましたが、自分をちゃんと愛せる人とか、結構他人軸な感じと言いますか、ぱっと見そういうふうになんかちょっと感じて、何かこうお手本になってもいいような、すごくいい人という選択肢が羅列されているような、ちょっとそういう印象を受けました。

【委員】

まず5ページの「学校教育で重視すべきこと」について、保護者と教員で意見の傾向が全く異なる点が面白いなど、感想になってしまいますが思いました。外から見る学校と内で働く中で、働いている教員の求めるものや課題が明確になっている気がしました。

また、統合に対する考え方、綺麗に1、2、3と色分けされているところで、ちょっとびっくりしたところもありますが、「調整ができない場合は、統合もやむなし」ということなのですが、一般論として答えるには、やはりこの辺なのかなとは思いますが、自分ごと、我が子のこと、地域のこととなったときに、果たしてこれが、本当にこのあたりに落ち着くのか、疑問と言いますか、心配があります。すいません、感想になってしまいました。

【委員】

自分の感想になりますが、これを最初に見たときに、望ましい将来像は、思いやりあるとか、悪いこと、いいことの区別ができるなど、どちらかという精神論とか、マナーなどですが、この「学校の教育で重視することが望ましい項目」では、勉強の部分の選択が多くて、そのギャップが面白いなと思いました。その原因は、質問の文言が学校教育で重視するって書いてあるからかなとも思います。やはり多くの方は、学校には勉強、学力を望んでいるのだなと思って、地域に対する思いやりなどは町で育てていった方が、お互いに負担を分け合うことができたりするのかな、ということを感じました。

【委員】

感想というか、謝罪になるのか、5ページの学校教育で重視すべきことで意外だったのは、私、実は英語の教員だったのですが、英語教育が保護者・市民で1位になっていて、まだまだ十分じゃないという認識を持たれているのかなと思ってすいませんということと、あとは教員の資質や指導力の向上についても、保護者市民の皆さんから入っていてすいませんという感じです。

このアンケートを作る段階で気づけばよかったのですが、先ほどどなたかもおっしゃったように、選択肢がもっといっぱいあるとまた違ったのかなと思ったりして、今の地球規模での感覚から言うと、例えば環境教育とか、平和教育とか国際理

解教育なんていう選択肢が入るとまた変わってきたのかなと。ちなみにその他はどのような回答があったか、記録に残っていますか。

【事務局】

今すぐにはそのデータがないので、終了後その他の意見などまとめたものを、皆さんにメール等でお送りさせていただきたいと思います。

【委員】

先ほどの英語について、英語の教育は、親がみんな英語を習わせたいというか、英語は喋ってもらいたいとか結構そういうものがあります。一方で、大人は喋れないし、英語が中学校高校時代は成績が良かった人でも、大人になっても喋れないしという、そういうモヤモヤがみんなありながらも、子どもには英語喋ってもらいたいという願望がここに投影されているにも関わらず、子どもの望ましい将来像では、国際的に活躍できる人が求められているわけでもない。そういう親の中でのギャップがあるのだということ、英語が喋りたい、英語を喋ってもらう子になってほしい、それはなぜ？というところが、多分親にも明確なビジョンがなく、こうあってほしいというのがないけど、学校には求められているという、ただそれだけな気がします。

【会長】

今おっしゃっていただいたことが、かなり核心に近いところで、英語に限らないのですが、英語の場合は特にそれがありますね。

最初の会議のときに、ご飯が作れるとかそのようなお話がありましたが、何のために学ぶのかというと、生きていくためなのですね。その生きていく社会の時代とか環境が、時によってテーマが変わってくるから、そこに応じた学びをとということなのですが、日本の場合は、明治時代の頃からずっとステータス、つまり「学校を出ました」、「そこで何を学びました」ではなく、「いい大学を出ました」みたいなところが求められていて、なんで点数がいるかというと、進級進学するため、卒業するため、だから中身は問うてないです。

英語に関しては少し違って、今おっしゃったように憧れと言いますか、なんか英語できないとまずいかな、みたいなことがあります。私は理工系の大学なので、英語ができないと洒落にならないのですが、本当にできなくて恥ずかしくて言えないぐらいです。要するに、何で英語をできないといけないのかという感覚が、先生にもおそくないのではないかと思います。指導者の手応えとして。それがやはり大きな問題としてあります。私はへたくそな英語使いですし、へたくそなフランス語使いなのですがどうにかなりますよ。だから、どうにかするということを持ってほしい。

よく言うのが、浅草とか日光とかそういう観光業界に行くと、店員さんが普通に英語を喋るのですね。売ってなんぼの世界というのは、もうそれが当たり前なので、やはりそれが正しいです。ビジネスレベルはその次ですが、ビジネスレベルでできればいいですね。

でも今は ICT があって、これだけオンラインでいろんなことができる時代になってきていて、前よりは英語学習や外国語学習が相当できるのですが、おそらくその発達よりも先に AI が発達してしまって、大抵の人は英語喋らなくても済むようになります。そして、AI に騙されることもあります。

先程出てきましたけど、親の願いとの誤差というか、ギャップというのはどうしてもありまして、心の優しい思いやりがある人に育ってほしいと言っている人が、道德の授業いらないから数学に回してくれと言ったりするので、そこは、ずれていると言いますか、当たり前の感覚なのでしょうね、親御さんとしてはね。

あとは、その中の質ですね。英語にしてもキャリアにしても、道德にしてもそうですけれども、どういうことを目指しているぐらいに実践していくのかというところが惰性にならずに、テーマを使っていけるかどうか、そのような感じがします。また次回この辺の話も出てくるかと思います。

他にございますでしょうか。

一旦このアンケートはお持ち帰りいただいて、いろいろご検討いただければと思います。

～議事② 多様な教育ニーズへの対応に関すること～

議事の②「多様な教育ニーズへの対応に関すること」について、これは専門的な話もありますし、しんどい話でもあるんですけども、非常に今喫緊の課題になっておりますので、事務局から資料のご説明をいただきます。よろしくをお願いします。

【事務局】

(資料 2 に基づいて説明)

【委員からの事例発表】

(「東京みらい中学校について」に基づいて説明)

【会長】

どうもありがとうございました。

問題意識がクリアになるだけじゃなくて、非常に先進的な取り組みをされていました。貴重なご報告もありましたし、委員の皆さんから感想でもご意見でもぜひいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

【委員】

私も初めてじっくり聞かせていただいて、本当に希望に溢れている学校だと思います。内閣府資料の、この認識すべき教室の中にある多様性の資料を見て、違和感を覚えました。全部が「不」と書いてあり、発達障害の可能性のある子どもや、ADHD などいろいろ書いてありますが、ひとつひとつが欠けている所に焦点が当たっ

ていて、その子の光るところを見つけるとか、私達の物の見方をまず変えることをしないと、解決できないとすごく思いました。生きる力を育むとおっしゃっていて、でも、学校は学力を上げる場であると、まだまだ思っているところがあって、生きる力、さらに幸せに生きないといけないという力を、育めるかもしれないという期待をすごく感じさせていただきました。

すごく良いと思ったのが、「ここにいていいんだよ」という場所がないから、家でも居場所がなく、学校に行っても疎外感を感じる子が増えていて、不登校になっているというところに、すごい光が差したような感じがしました。

【委員】

どの学校もそうなのですが、最初に保健室に子どもが集まりがちです。不登校になってしまう子どもは、お腹が痛い、頭が痛いと言って保健室に逃げ込みます。私も子どもの頃にやっていましたので、よくわかります。

この学校には、不登校の経験がないと入れないという縛りがあり、おうした子どもが来ます。だから保健室に逃げ込もうってなるわけですよ。そうすると、保健室の機能が阻害されてしまうわけですよ。なので、別室を用意していて、でも別室も最初は殺風景で、机があって、シールドされていてみたいなものだったのですが、もう少し緑を増やして、ソファを置いて、そんなことをしたら子どもがずっとそこにいて、教室に戻れないのではないかと云われますが、そこでタブレットを見ながら授業を参観したりとかできるのですよね。そうすると、この授業は自分も行ってみたいなとか、そういうきっかけをそこで作っていくという、そのステップをどうやって踏ませていくのかが一つ私どもの課題になっていますけども、場所としては、必ず学校に来れば自分の居場所があります。それは何段階かに分かれて、その場所は保健室ではなく、保健室は病気になった人や怪我人が行くところで君の行くところじゃない、といったことを生徒は理解できるわけですよ。その代わり、自分の居場所があって、自分で選択します。今日は授業いけそうかどうかなど。

うちは9時半始まりなんです、授業も。1時間遅いです。でも早く来る子ももう8時半に来てるんですよ。僕より早く来てる子もいます。だけどその9時半よりも遅く来る子ももちろんいます。そうすると普通は、遅刻してきたら駄目と叱りますが、うちはそうじゃなくて、「よく来たね」と言います。ここはやはり普通の学校と違うところで、これを教員が、こういう学校なんだということで採用されてきているわけなので、統一した基準でできているというところが、ずいぶん違うと思いますね。

また、ICTを使った授業について、教育委員会にいた当時は、うちの学校はオンラインで授業を受けたいと言ってもやってくれないと相談されることも多くありましたが、厳密には公立の学校はやってくれないのではなく、人手不足の状況です。ICTを使った授業についても、ずいぶん言われました。やれる先生はそれはいるかもしれない、でも全員じゃないし手も限られます。一方で、私の学校は必ず授業はT2で、要するに二人の先生がいてメインでやる先生がいて、そういったサポートをする先生がいる。これをどこまでやれるのかが課題だと。今は人数も少ないのでできていますが、これも一つの課題だと思います。

【委員】

日本中の公立がこういう教育課程が組めるのだったら、不登校がゼロになるになるのではないかと本気で思いました。この募集要項を見てかっこいいと思ったのが、出願資格が年間欠席日数 30 日以上という点です。ちょうど今、高校入試の中で、欠席日数 30 日以下でないと駄目ですと言われることをたくさん経験しているなか、この文言は本当にかっこいいなと思いました。

不登校の保護者の方とお話したり、子どもと話をしたり、そういう機会も非常に多いし、彼ら彼女たちの切実な状況とかを本当によくわかるし、我々現場としてももちろん、彼ら彼女たちが登校できる環境とか状況を設置したいのですが、物理的にまずこちらの環境は難しいというジレンマが、どうしてもあると思っています。

特に、日本の学校は、多様性と言いながらも、その多様性を受け入れる受け皿があまりにも少なすぎるのではないかと。子どもたちは不登校の子も含めて、全員が原石だと思います。ですが、公立の学校で磨ける原石は、ある数種類しかないのではないかと。学校で磨けない子たちとか、磨きづらい子たちはじゃあどこで磨けるかというところ、その場所があまりにも少ないから、それはすごく残念だなと私が言うと他人ごとのようですが、このみらい中学校にいろんな可能性と言いますか、まさに未来を垣間見た様な気がして本当に素晴らしいなと思います。この学校は教員を募集していますか。

【委員】

絶賛募集中です。私もいろんな特別な教育課程を作ってきたのですが、なかなかそれだけのために教員は応募したりできないじゃないですか。どちらかというと退職された後に、貢献しようというような方が多かったのですが、うちの学校はおかげさまで若い先生が多いです。

少々言いにくいのですが、なぜうちに来たのかというのはですね、でも何となくちょっとわかっていただければいいのですが、そうなのです。

ハードルはあります。公立の学校は先生が待っていても子どもたちは来る。でも、私の学校はアクション起こさないと来ないわけですよ。なのでそれがはっきりしているということは非常にリスクなので、そういったところを目指してくる先生というのは、熱量があると言いますか、そういう先生が多いのは間違いないですね。

公立の学校は、いろんな先生がいるので、そういう中で組織をまとめながらやることはとても大変だと思います。それがうちの場合は、ポリシーが非常にはっきりしているというのと、もうひとつは私立の学校なので選べるということです。子どもたちを選べる、子どもよりむしろ保護者を選べる。非常に建設的な意見を言う保護者はもちろんいます。ですが、あれこれこれこれということを言う保護者はいません。そういうところが、選べるという点の強さかと、なのでさっきお話ししたように、ある一定の条件でしかうちの学校はできないわけですが、その成果の一つでも二つでも公立の学校に返したいという思いは、42 年の役人根性ですずっと持っていたのですが、そういうことをしてみたいです。

【委員】

中学校の3年間でできることは、私も自分の中学時代に何を見ていたかと言えば、高校に入ることしか本当に見えてなかったのが、ここに行ったら自分が20歳になったときとか30歳になったとき、もしかして結婚した後のこととかすごい先の未来が見えたりして、それがすごい可視化されるから、ものすごい勢いで夢叶えられるようなすごい感じがすると思いました。

学校でやはり教室の中で同じ方向を見て学ぶということを私達ずっとやってきて、なかなかそういう学校があるということ自体を知らないし、私も今日ここに来るまで、こんな素晴らしい学校があるなんて知らなかったというぐらいです。なので、このような学校を知れる場所がもっとあったらいいのにと思いました。

【委員】

全国にね、こうやってできてきているので、でも困り事もいっぱいあって、例えば、さっきお話のあった進路を考えるとときに推薦を出すと、不登校の子じゃ駄目ですよと言われることの方が多いです。なので、入学したときは不登校の子どもでしたが、今は違いますからと言うわけです。

特に、3年生は目標があるとちゃんと授業に出てきます。なので、うちの学校は不登校の特例校ですけど、不登校ではないと。全員じゃないですよ、特に1年生なんかね、まだ不登校の傾向から抜けきれなくて、今日は嫌だなと思って出てこないという子どももちろんいます。けれど、3年生は目標があって、その目標はやはり叶えなくちゃいけないので、そこは頑張らないといけませんね、そういう学校に、そういうことも申し上げないといけないというふうには思います。

【委員】

私達が普段、指導要領や時間割、教科書、行事に縛られている毎日の中で、委員がにこやかに楽しそうに学校の紹介をされているのが、本当に羨ましい思いで聞かせていただき、素晴らしい学校だなと感じました。その反面、今日、週初めで職員が週案だして、反省欄を見てきたのですが、やはり不登校の子どもがうちにもいます。集団駄目、決められたことをやるの駄目、決まったものを食べるの駄目。理由がない。我慢できない。無理、駄目、耐性がない。どうしたらいいの？という中で、社会はもっと厳しいのに、この学校に耐えられない子どもでいいのか、と考える職員もまだたくさんいるし、ある意味ではそういう社会もまだまだあると思っています。

そんな中ではありますが、公立の学校として、ニーズがあってもなかなか学級の開設は学校ではできないし、学級を開設したとしても、専門的人材も厳しいというような中で、合理的配慮という名の下で、合意形成を苦しんで苦しんでやっていくという学校の現実もあります。

それでも市からは、タブレットを配布していただいて、幸いにも、うちの養護教諭がすごくオープンな職員なので、特別支援の子ども不登校の子ども、保健室で受け入

れて、保健室から自分の教室の授業を見ることもできるようになりましたし、心の教育相談員さんも配置されているので、相談室という部屋なら行けるという子どももいて、市の取組に学校として助かっているという面もあります。

最終的には、この会議がこれからの学校のあり方検討会というところなので、委員のお話にもあった、うちの学校は普通の学校とは違うので。じゃあ普通の学校ってなんだろう？公立の枠組みの中で、これから本当にできることはなんだろう？ということを考えるきっかけになりました。

給食とか水泳とか、本当に向き合うべきものは何なのかということ、本気で考えていくことが、これからの公立学校なのかなという答えをもらったような気がします。

【委員】

私は、子育てが一段落して、今一度自分の人生を取り戻したい女性たちのコミュニティを5年間作っているのですが、共感できない、同じ構図だなと思いました。好奇心があって、チャレンジして感動があって、体験の積み重ねで、活力に向かっていくというのを本当5年間ずっと見てきていて、子どもも大人も全く関係ないんだということをまず発見して、感動していました。

午前中に見た弥富小学校も、地域と協力して、いろんな地域の人に授業をしてもらうことをたくさんやっており、同じような、みらい中学校もそういうカリキュラムや授業があるのかなというふうに見えました。弥富小は、学校の中を外にお知らせする会議を設けていて、対話を繰り返してきたらうまくいくのかなと、個人的に思ったのですが、みらい中学校では、工夫して外との繋がりをより多く持つために何かやっていることはないですか。

【委員】

まだ地域と云々というのはないですね。というのは、うちの三幸学園がいっぱいリソースを持っているので、まずそれをどうやって活かすのかということなので、正確に言うと、専門学校の先生に来てもらって好きなことを言わせて、何か体験して終わっちゃうかということとそうではなくて、これが君たちのここ、ここ、ここに関係しているんだということを並べてもらうのです。要するに、授業でいくと導入のところで何があって、最後のところでこうやって振り返る、ということまでを仕立てるのです。なので、授業プランを考えてもらうのですよ。だから結構大変です。ですが、各種学校の先生たちだからできるのですよね。それを地域の人にお願ひしたら、おそらく無理だと思います。だからまだ手をつけられない。体験だけならいいのですが、体験から子どもたちが全てを吸収できるかというとそうではなく、授業もそうなのですが、自分で考えさせたりとか、その流れだとか、そういったところをちゃんと段取り取っておかないと無理なのですよね。はっきり言って、それがないと授業とは言えません。

私どもの場合は、それを授業仕立てでちゃんとやる、というところがポイントなので、例えばパティシエが来て何か料理作っているようだけど、そのためには、例えば計量するので、重さだとか、色だとか、何とかと混ぜるとこうなる、とかいう

ことも知らないといけないわけですね。それをちゃんと授業の中に入れていただいて、何を学ばせるのかという狙いを、きちっと持ってないと授業はできないので、そうするとこれは算数だとか、国語だとかそういうところに繋がってるんだと言うだけでなく、これを伝えなくちゃいけない、伝えるってとこですけど、伝わるってところがやはり重要だというふうに思います。なかなか地域の方だとそこまではリクエストできないところが今の課題だと思いますね、でもやってみたいですね。いくつかプランはあるので、できたらまたご紹介したいと思います。

【会長】

教員のあり方として、ひとつは何かを教えるというところは、それはそれとして、コーディネートしたり調整したりする、というプロデューサーみたいな役割をされている。今、委員がおっしゃったようなプロの方とか地域の方とか、必ずしも教育の専門家ではないところを繋いで教科化するみたいな、だからイベントではなくて平常のプログラムです、そういうことですよね。

今日私も3校学校に行って、先進的な取り組みや日頃の悩みもいろいろ拝見してきましたのですが、大体これまで私も勉強してきたようなことと、そんなに違わないというか、現場の苦しみは大体共通しているなと思いますが、足りないなと思っているのは発想力です。私自身の反省も含めて言うと、学校の先生は型にはめて考えて、制度の中で考えています。既存の枠組みで考えちゃうから、だって生徒は減るに決まっているし、お金は不足するに決まっているので、できることって既存の制度でやったらどうしてもジリ貧になるのは変わらないのですよね。

もう少し柔軟に、もうなんぼでも私なんかはアイディア出てくるのですが、自由に発想して、できなくても構わないけどそれでいいと思うのです。でも、これからのまさにあり方の懇話会ですから、我々は自由に行こうと思いますけど。私の方からの感想というか、まさに今後のあり方の私ども、佐倉の方で、これを引き取って考えるときの考えとしては、素晴らしいのですが、ペイしないですね。おそらく親御さんが年間百何十万円を負担しておられて、さらに通学経費等も掛かり、ものすごいお金が掛かる。ですがそれだけ集めても、おそらく採算が取れないです。だから、何らかの仕掛けをしないといけない。これを公立の学校で何を優先してできるのかということですね、特に市町村レベルですと、どうしてもその財力が限られている中で、優先順位の振り向け方とか、人的なところだということはわかっているのですが、それも育っていないし、肝心なところがタダ働きとか、ボランティアのようになりかかっていることが気になることです。

それから、今日この話の予習をする中で、千葉工大の教職はなかなかすばらしくて、5人いるのですが、私だけは歴史とか思想の専門家で、あとは社会教育の専門家と教育行政の人とスクールソーシャルワーカーと教育心理学ですね。だからもう、私だけが現場っぽくないのです。教育行政の人が不登校問題のスペシャリストで、よくテレビに出ていますが、くれぐれもときつく言われたので最後にお話するのですが、委員もおっしゃらなかったし、資料でももちろんおっしゃっていないのですけれども、文科省にだけ出てくる言葉がありますね、「不登校対策」という。こ

れはもう現場の人はみんなわかっているのですね。「対策」ではないのです。「対応」ももう少し適切な言葉はないかなと思っています。

まさに、今から百何十年か前に学校教育始まったときに、画一化とか均質化するためにこういう仕組みを作ったので、学校教育はそこに見合った仕組みなのです。なので、委員がおっしゃるように多様性が全然無いので、何か他のプログラムを複線化してもいいのではないかと本当に今思うところなのですが、そこで育って、うまいこと適応した人は先生になったり、政策を立案したりしているので、なかなかそこは抜けていけないという苦しみはありますが、非常に貴重なお話をいただいて、思うところがたくさんあるので、また勉強をして今後の進め方に反映できればと思います。

～議事③将来を見据えた学校施設の整備に関すること～

議事の③「将来を見据えた学校施設の整備に関すること」についてということ、話はだいぶ変わりますが、見方としては、ただのインフラとか設備の話というよりは、新しい教育の形があって、そこでの教育活動があって、それに見合ったものはなにかということを考えていただければというふうに思います。それでは事務局から資料のご説明をいただきます。よろしくお願いします。

【事務局】

(資料3に基づいて説明)

【会長】

どうもありがとうございました。それでは委員の皆さまから、自由にご発言いただきたいと思います。

【委員】

この試算が高い、少し安くなるのかそういう話だと思いますが、これはこのまま払えそうな値段じゃないということですよね。何とかすれば払えるという値段なのか、そこら辺が全然わからなくて、払えるというかあれなのですが、それがもう捻出できるレベルなのか、そうじゃないのかが私にはわかりません。

【事務局】

資料の11ページを見ていただきますと、過去の施設関連経費が令和3年3月に策定したときに17.7億円です。これを単純に、50年後に改築をしていく場合には41.7億円なので約2.4倍以上あります。そして今、17.7億円もかなり金額的には厳しいところもありますので、市としてはこれを維持できない形にはなってくるだろうということです。次の長寿命化についても、31億円ということで、現状より1.8倍必要になってくるというところなので、今後やはり長寿命化以外のことも必要になってくるだろうということが見えてきます。

【委員】

あと、緊急を要するというのがどの程度、例えばどのような地震が来たらもう本当に危ないのか、優先順位があると思っていて、優先順位を市でピックアップされているのでしょうか。来年度は、ここはどうしてもやらなきゃいけないというスケジュールは立てながらやっているのかなと思います。

【事務局】

我々の方で現地を見て、今回この点検箇所の状況を踏まえた上で、今後どうやっていくかということは計画して行っています。今後市では、3年ごとに来年、再来年という3年間の計画を立てるのですね。この状況を踏まえて、我々の方で今一番危ないものを予算化してやっていくということは考えています。

【委員】

今日見させていただいた学校の中で、おそらく一番古いのは弥富小でしょうか。正直、外壁はやはり古いという感じはあったのですが、トイレなど綺麗にされていて、子どもたち目線で言ったら、古くてもそんなに嫌という感じではないのかなと思いました。でも、やはり安全が第一というところなので、安全にもう見た目とか云々よりもやはり、安全に一番優先順位を多分していただいているとは思いますが、そのように動いているのだらうなと思っていて。ただ、お金のギャップが凄すぎて、正直、市の中での見通しというか、もう手筈がないと言いますか、希望と言いますか、こういうふうにやろうと思っていることがあったりするのでしょうか。

【会長】

これも、行政文書の見方みたいな文法がございまして、お書きになれない範囲もありますが、わかっていることと言えば、人口が減っていき経済成長が止まっていて、今後円高になることも多分ないとかいろんなことを考えると、経費はもう、どんどん上がっていくばかりで、お金が足らなくなるというのは間違いないです。

おそらく、ここで今後の数字を出して、シミュレーションされるだろうと思っ
ていまが、学校統合みたいなことをしたときのコストがどれぐらいになるのか。つまり、建て替えるタイミングで例えば三つの学校を一つにする、そうするといくら確保できるというか、いくらでできるのかという試算が多分出てくるのですね。その前提で議論されていると思うのですが、それも結構大胆にやって、例えば普通だったら、2校を1校とか3校を2校ぐらいで考えるところを、3校を1校ぐらいにして、あとバス買って、バスって減価償却10年ぐらいだから10年ぐらいでバス買って、遠くの生徒も通わせるぐらいのつもりで設計し直す。弥富小を見て特に思いましたけれども、あの小規模校の良さを生かすためには、あそこでずっと教育をしていくのは駄目で、週の半分ぐらい別の学校に行って、あるいは他の人がそこに来て学び合うみたいなことを効率的に取り組むみたいな発想を変えていくのですね。そ

うすると、既存の施設で使えるところを使っていて、いらないところはもう土地ごと売って、予算を捻出するくらいの発想にはなるのですね。多分なさっていると思うのですが、そういうような、もうちょっと教育委員会を超えた市政の話として出てくるくらいの次元の話かなというふうに私は思いました。

【委員】

統合する前提だと、どのくらい減るかも全然分からないのですが、それがもう1番希望というか、そこにみんな向かっているような感じなのですね。

【委員】

ある意味、建て替えが迫っているということはチャンスでもあるので、そういうときに、どういう教育環境を子どもたちに提供できるのかということを、ここでは考えるわけですね。それは少人数学級がいいのか、中くらいがいいのか、どういうのがいいのか、ということを考えると、じゃあここここを統合していこうねとか、そうじゃないよねとか、ということを考えるんじゃないですかね。

足立区の場合、私も平成の一番初めの頃に、適正配置計画を作りました。50年ぐらい、それに基づいてずっとやってきています。ピークで119校あったのが今は102校、そのくらいにしか統合ってやってきたのですが、進まないものなのですよ。なので、じっくり考えて、どうするのかというのをやはり持ってないと、ここやればいいんじゃないという話ではないということです。やはり教育環境として何がいいのかということを考えた上で、また将来の見通しを考えた上で、この統合は子どもたちにとってプラスになるのかならないのか、ということを考えていかなきゃいけないというふうに思います。そうすると、老朽化しているということは、逆に言えば、どうしていこうかと考えるチャンスだということですね。

【委員】

弥富小でお話を聞いていて、欠席日数が多かった子が学校に遠いところから通って、本当に通えるようになりましたというお話をいろいろお聞きして、弥富小はもしかしてそういう可能性の方がすごい高いような気がして、体験型学習もできて、地域の人と密接に関わり合えるというのもあるし、先生方も贅沢な環境とおっしゃってたのですね。私達、大人から見てもとても贅沢な環境で、でも多分あのままだったらもう衰退して、あの学校がなくなってしまうという危機感も感じて、弥富小を次どうするかとなったときに、委員からご紹介いただいた学校のようにリニューアルして全然違う学校にするとか、何かそういう発想ができれば、同じように建て替えるのではなく、他とは違う形で新しくできないかなと思いました。

【委員】

先ほど申し上げたように、そういったことを考えるチャンスでもあるということですね。

少し前ですけど、足立区の学校で、急にマンションが建ってしまって、学校をとにかく大きくしなきゃいけないというので、学校を建て替えたわけですよ。そうす

ると、当然ですが高層化します。でもマンションですから、しばらくするとみんな小学生じゃなくなって中学生高校生になっていって、だから教室が減るわけですよ。そのギャップってものすごいわけですね。それに合わせて作ったんじゃ、あと大変だよねということはどうしたかという、道路に面している部分については、違う施設がいつでも入れるようにあらかじめ作るということを考えていたりとか、これも一つのチャレンジだと思うのですが。あるいは、ある学校では入口を図書館にしました。それで、地域の図書館としても使えるようにする、そうするとどっかの図書館がもしかしていらなくなるかもしれない。そういうことをやりながら、全体施設としてどうなるかはやはりお金の問題もあるので考えていく、これもやはりチャンスだと思います。

【会長】

私は常々セブンイレブンを入れるべきだと思っています。見守りの意味でも非常に大事で、地域のセンターにもなるし、みなさんに足を運んでいただけるというのはね。みんな同じ公立学校で同じでなきゃいけないってことなく、特別支援学校なんかはまさにそうなのですが、センター機能みたいなものがあって、それを他の一般の学校で共有するみたいなものがあるから、例えば理科教育のモデル校でも情報化のモデル校でもなんでもいいのですが、そういうところで良い先生を集めて、お金かけて施設を作って、そういう教育が必要だったらそこに行けばいいし、先生を派遣してもらえばいいので、何かその先生がその施設で、その教育をやらなければいけないという発想はもういい加減捨てないといけないと思います。

ICT ずいぶんこないだのコロナのときは縛られたという経験がありますけど、そこで学習したことも相当あるし、今後ますます進んでいるわけですね。私の大学なんかもそういう大学でもあるので、とにかく学生たちの ICT スペックはものすごい高いです。世の中にはそういうできる人がいるので、そういう力を世の中並にはしていただきたいなと思います。

今度の学習指導要領の文科省の答申の雰囲気と言うと、学校の裁量を増やすというところは、いろんなところで、例えば教育課程であるとか、カリキュラムの編成や教員配置とかも柔軟化が進んでくるとは思いますが、ある種、国の方にはお金がないから、現場で工夫しろという丸投げ戦略でもあります。ですが、委員がおっしゃるように、何かそういうときはチャンスではあるので、例えば先進的な教育モデルとセットにしたこういう建物を造り替えたいものを、佐倉モデルとして打ち出していけば、むしろ市民の方も誇りに思ってくれるでしょうし、社会に対しての説得力はあると思います。

【委員】

何となく前から思っていたことなのですが、8 ページに関わるのかな、ずいぶん前に市外の中学校で勤務していたときに、授業中とかに近所のおばあちゃんたちが、カートを引きながら校庭のど真ん中を散歩していくのですよね。そういう地域でした。それがもう全然普通だったので、おばあちゃんたちが通るときは体育の先生も、「はいじゃあちょっとみんな集合、ちょっと待ってろー」みたいな感じでし

た。その地域で、おばあちゃんたちが、「おたくの学校の誰々が裏でタバコ吸ってた」「じゃあこっち通せんぼしておいてあげるからアンタこっちから行きな」みたいな感じで協力して生徒指導にあたったりとか。これがいいなってすごく思います。地域のお年寄りやちっちゃい子たちが普通に学校にいるという環境がすごくいいなあと感じていました。ヤンキーたちもヤンキーたちで、おばあちゃんたちチクリやがってみたいものは別にありません。ばあちゃん頼むよーみたいな感じで。

学校でも保育実習や、老人施設に訪問したりしますが、そうするとこの子こんないい面があったんだとか、子どもたちの新しい面をたくさん発見できるし、だから、運営上どうなのか分らないですが、例えば学校の隣、または同じ敷地内に老人ホームがあるのもいいのではないかと思います。部屋を飛び出したおじいちゃんが3年1組の前の廊下を徘徊しているという、そういうシーンがあってもいいと思うし、ちっちゃい小さい子たちが隣でお遊戯やっけてもいいと思うし、そういう形もありかなってずっと感じていました。

【委員】

同じくですが、市民にちゃんと放課後開放するとかから始めてもいいのかなとずっと思っていて、家庭科室とか調理室とかあったりして、子どもたちは帰りに学童に行くけど、行けない年代の子とかもいるから、そういう子がそこで何かサークル活動かなにか分らないけど、大人と一緒に過ごして家に帰るような、そういう場所が学校の中に増えたらいいなというのをずっと思っていました。少し前に、市の公共施設再配置のワークショップに出たのですが、そのときに、学校側としては安全面が確保できないという問題があるというので、なるほどと思ってその辺をうまく外の、身元がわかっていればいいけど、なかなか難しいのかなと言われたら、外れの方は開放するけどとか、何かいいアイディアでその中のことがよく分らないのですが、でも何か切り分けられて、地域の人がそこで使って子どもたちも帰りに寄れるみたいな、そういう場所ができたらいいなとずっと思っていました。

【委員】

学校開放というのはどこでもやってらっしゃると思います。校庭開放したり、体育館でママさんバレーやったりとか、地域の方が集ってくれて、そこで朝ご飯を出すのですよ。ターゲットがいるわけですけど、その子だけ来いと言えないから、この学年の朝食食べに行きたい子集まれーみたいにやると、結構集まって来ます。僕もそこ行って気がついたのは、誰が対象だってわかっていますから、そうすると、ご飯の食べ方が違う。なんていうのですかね、いつも家庭の中で食べている子と、そうでない子って食べ方が違うので、でもそういうところでやはり、そうやって食べるんだとか、お話ししながら食べるんだとか、ということも学べるというのはそういうチャンスなんじゃないかと思いますね。これを学校で朝、給食出すのは大変ですよ。これはできないです。学校で朝給食を出すのは大変でできないので、地域の方が月に1回とか2回、そうやってボランティアでも何でもいいのですが、やってくださるというのはありだと思います。

【委員】

「学校というのは」と言っていていいかどうか分からないですけど、僕個人なのかもしれないですけど、学校ってある意味閉鎖的なところがあって、夕方犬連れて誰かが学校の中散歩しているだけで、ちょっと困りますとなったり、早帰りした中学生が金属バットを持ってグラウンド遊びに来るだけでも、バットはやめてよとか中学生はちょっと、というような、やはりある意味その学校の職員子ども保護者、わかっている人間だけで生活してきた環境でもあるので、これからの学校が、多くの人に地域の人に使っていただける場所になりうるためには、意識だけではなくて、ハードルが高いのかなというものも感じました。

何より、よほど私達学校現場で働く者も、教科書とか学習指導要領とか、縛られている、縛られてきた、落差もあったと思います。新しい教育を作り出す難しさというところも、迫られてということを考えながら、今漠然と聞いていました。

【会長】

チャレンジして失敗したときのことを考えてしまいますよね。大学は、素晴らしい設備持っているのでぜひ使ってもらいたいですし、大学は常にオープンで、いつでも開きっぱなしで誰でも入ることが可能なので、少し参考にしていいただければと思います。

アメリカのジョン・デューイが今から 100 年ぐらい前に、いわゆる社会の学校は地続きであって、学校が社会を作っていくのだと、アメリカ人らしいことを言っていたのですが、私はそれにものすごく反対していて、学校は、委員が最初におっしゃったような、閉じた場所で内輪で完結する方がまだベターだと、今でもずっと思っています。開放するのはその後の話だと思っていて、だからこそ社会であつたら犯罪になったり異常な行為でも、児童生徒は暴走して許されるまで、のびのびと育てるのだという発想を私は持っているのです。

今は時代が変わりつつあって、今から 20 年ぐらい前に池田小学校と大阪の事件があって、変な人を入れるととんでもないことになる、あの事件で身構えました。

コロナでまた少しピリピリしているといったところがあって、今ちょうど 2 年生を教育実習の予約に行かせる時期で、学校訪問の際の細かなサポートを私にしては慎重に教えているのですが、今だんだんピリピリされているところも多くなってきました。はいるなと思ってはいます。

これもまた長期的な視点でいろいろ話し合っていきたいと思いますので、ぜひこれを踏まえて、新たな考えなどを共有できたらなと思っています。

それでは議事の本編の方は大体済んだことと思いますので、事務連絡等あればよろしくお願いいたします。

【事務局】

(次回会議の開催などについて伝達)

【会長】

私も今日は午前中の学校見学からずっと教育漬けの1日で大変勉強になりましたし、貴重な学びの機会になりました。また今後どうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。